

森と木のことわかる授業



5月31日、目黒区立東山小学校で、皆川芳嗣林野庁長官が同校の5年生を対象に「森と木のことわかる授業」を行いました。

皆川長官による授業は、昨年12月に行われた港区立御成門小学校に続き2回目、今回は、東山小学校5年生の4クラスを2クラスずつに分け、2回に渡って行われました。

授業では、「水はどこから来ている?」、「日本にある世界自然遺産はどこ?」、「これは合板というものだけど、どのようにできている?」などの



質問が、皆川長官からクイズ形式で出されたのに対し、子供たちは、次々に手を挙げて答えるなど積極的な姿勢が目立ちました。

また、バスの床材に木材が使われていることや、林野庁から同行した女性職員が森林官時代に熊に遭遇した話を紹介した際には驚きの声上がるなど、興味を持って授業を受けている様子が伺えました。

皆川長官は、小学校に持ち込んだ木のうちわや割り箸などの木製品を示しながら、木材を上手に使い「木づかいの環」を循環させることが「森林づくりの環」を循環させ、そのことが日本の森を元気にすることを説明し、日常生活の中で上手に「木づかい」を行おうと呼びかけました。

また、皆川長官は、授業が終わった後も子供たちと給食をともにしましたが、そこでも多くの質問が寄せられるなど、長官にとっても意義深い1日でしたが、子供たちにとっても興味が尽きない授業だったようです。

